

2024年3月6日
株式会社SVPジャパン

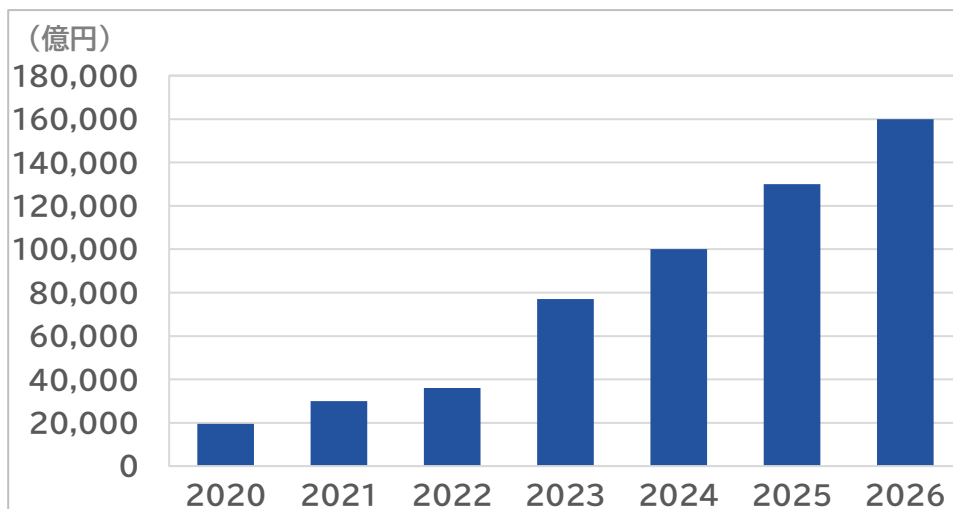
SVP注目市場分析 「AI（GPU）」を公開

～世界的に需給が逼迫するほど急速に市場が拡大中～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「AI（GPU）-世界市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

■ AI（GPU）の世界市場



※市場規模（マーケットシェアを含む）は、GPUメーカーの出荷金額ベースで、円換算（各年の米ドル対円相場の平均で換算）で推定。

GPUの市場は、1990年代後半に3Dグラフィックスを処理する半導体チップとして立ち上がり、ゲーミングPCのグラフィックボード向けを中心に市場が形成されてきた。eスポーツのユーザーの拡大や、コロナ禍の巣ごもり需要の影響でゲーミングPC向けの需要が拡大し、市場が徐々に拡大してきたが、近年、AIの開発に使用するGPUの需要が急拡大し、需給が逼迫するほど急速に市場が拡大している。

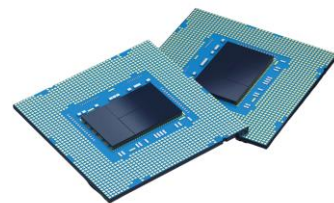
GPUはデータセンターのサーバーに搭載され、AIに文章や画像などの情報を機械学習させる「学習」と、質問に答える「推論」の機能を担っている。ChatGPTの登場で、生成AIの開発がブーム的な様相を呈したことで、2023年の春頃からGPUの需要が世界的に急増している。

■ AI（GPU）の市場概況

2023年の世界の市場規模は、前年から2倍以上の拡大となる約7.7兆円になったと推定される。用途別には、AI関連のデータセンター向けが70～80%を占める。

前述のとおり、2023年は需給が逼迫しており、市場を牽引するつ米エヌビディア（NVIDIA）の最新のGPUでは、納期が1年先になるほど需要が供給を大きく上回っている。AIの開発に使用される半導体は、世界的に旺盛な需要が続くことから、そのほとんどを占めるGPUは、当面、売り手市場が続くと見込まれる。

また、今後の成長市場として生成AIに力を入れるAmazon.com、Google、Microsoftなど、米国のクラウド大手では、NVIDIAのGPUを使用する一方、AI半導体の自社開発にも取り組んでいる。長期的には、これらの独自開発のAI半導体が増加していく可能性もある。



■ 本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造

■ 本レポートの購読について

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

ご希望の場合は、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購読いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

[お問い合わせは、こちらをクリック](#)



資料請求

お問い合わせ

[SVP会員の方は、こちらをクリック](#)



会員サイト

■ 次回のテーマ

4月のテーマは、「エンタープライズSaaS（業務システム）」と「エンタープライズSaaS（営業・マーケティング）」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール・・・毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

[会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン
代表取締役 : 橋本 雅
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F
設立年月日 : 1974年7月1日
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス
URL : <https://www.svpjapan.com/>

[本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課
info@svpjapan.com